

1969

蝶と蛾 TYŌ TO GA (Trans. Lep. Soc. Jap.) Vol. 20, No. 1 & 2

— 11 —

奄美大島で発見された *Ulothrichopus macula* (HAMPSON)

アマミキシタバ (新称) について

杉 繁 郎

東京都大田区大森北4丁目 14-12

Discovery of *Ulothrichopus macula* (HAMPSON) from the
Amami Islands, Japan (Lep. Noctuidae, Catocalinae)

SHIGERO SUGI

これまで日本国内で採集されたことのない Catocalinae の 1 属, *Ulothrichopus* WALLENGREN, 1865 に属する 1 種の蛾が奄美大島で発見されたので報告する。貴重な標本を採集された早稲田大学生物同好会の宮下哲夫氏ならびにその研究を私に委ねられた同会 OB の神保一義氏にあつくお礼申上げる。

Ulothrichopus macula (HAMPSON)

アマミキシタバ (新称)

Audea macula HAMPSON, 1891, Ill. Typ. Spec. Het. B. M., 8 : 84, pl. 146 : 21.*Audea macula* : HAMPSON, 1892, Fauna Brit. Ind. Moths, 2 : 439.*Ulothrichopus macula* : HAMPSON, 1913, Cat. Lep. Phal. B. M., 12 : 221, text-fig. 18.*Ulothrichopus macula* : GAEDE, 1938, in SEITZ, Macrolep. World, 11 : 456.

所検標本: 1♀, 奄美大島名瀬市朝戸崎, 7. VIII. 1967 (宮下哲夫採集). 開張 62 mm, 前翅長 31 mm.

国外分布: インド, セイロン, ジャワ, セラム, ニューギニア, 台湾.

本属の蛾は、アジアおよびアフリカの熱帯、亜熱帯に十数種を産するが、その斑紋色彩が我々になじみの深い

Catocala 属の蛾ときわめてよく似ていることで知られ、熱帯のシタバガ亜科中 *Catocala* と直接の関係をもつおそらく唯一の属である。後翅の地色は、*Ulothrichopus* では常に黄色ないし黄白色で、外縁部には *Catocala* と同様な黒色帶がある。ただし内方の黒色帶は通常発達しない。前翅は一般にやや幅せまく、翅頂部はやや突出する。前翅外横線の形状は *Catocala* とそっくりで、第4, 5 室内ですべどく外方に角をなしている。裏面の斑紋もまた図示したとおり *Catocala* の裏面とよく似ている。

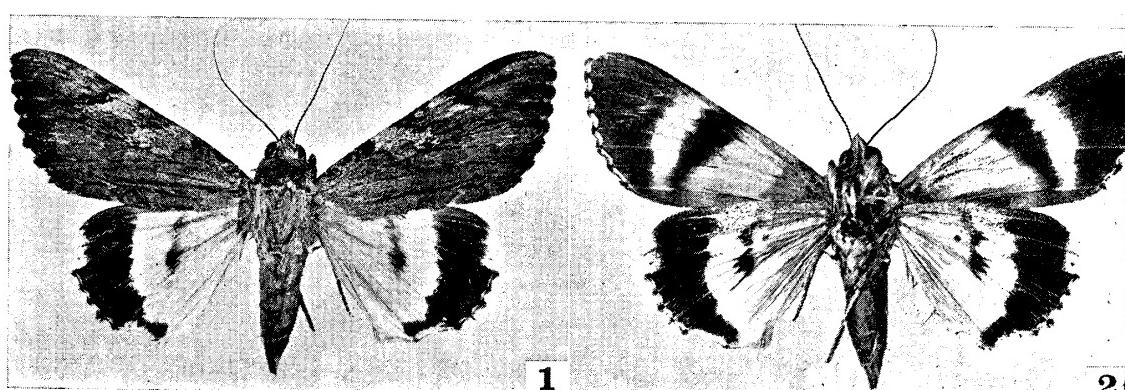


Fig. 1 *Ulothrichopus macula* HAMPSON ♀, Naze, Amami-Oshima Is. Fig. 2 Underside of the same.

種 *macula* についてくわしい記載は省略するが、前翅地色は暗灰褐色、後翅の地色はかなり濃い黄色である。本種はインドの Nilgiris から記載されたものであるが、日本にもっとも近い既知産地は台湾で、HAMPSON (1913) によって関仔嶺 (Kanshirei) が記録されている。またセラム島の山地 (6000 フィート) では本種の別亜種 *U. m. reducta* A. E. PROUT (1922, Bull. Hill Mus., 1 : 223) が多数採集されているので、本種は東南アジアの高地に残る山棲みの種であるかもしれない。おそらく本種は偶產蛾ではなく、奄美大島の山地に分布しているものと信ずる。

Summary

A female specimen of *Ulothrichopus macula* (HAMPSON), as figured above, was collected at mountain-side of Amami-Oshima Is. in August 1967. This is a northernmost record of capture, and that island may be a northernmost habitat of this Indo-Malayan species. It was already known from the mount of Central Taiwan.

日本未記録のコヤガの一種、

Autoba trilinea (DE JOANNIS) について

杉 繁 郎

東京都大田区大森北 4 丁目 14-12

Notes on *Autoba trilinea* (DE JOANNIS), an unrecorded species
from Japan (Lep.: Noctuidae, Acontiinae)

SHIGERO SUGI

日本未記録のコヤガの1種の標本を調査することができたので報告する。貴重な材料を恵与され、その研究を委ねられた池田市の山本義丸氏に深謝する。

Autoba trilinea (DE JOANNIS) ベニミスジコヤガ (新称)

Eublemma trilinea DE JOANNIS, 1909, Bull. Soc. ent. Fr. 1909 : 167; HAMPSON, 1910, Cat. Lep. Phal. B. M., 10 : 165, pl. 153 : 21 [Zi-ka-Wey, 1♂ 1♀].

Autoba trilinea: WARREN, 1912, in SEITZ, Gross-schmett. Erde, 3 : 270, pl. 51n.

♂♀. 開張 13-14 mm. 頭頂および頸板は淡褐色。胸背は淡紅色だが、前胸部から前翅基部にかけて白色を呈する。腹背は淡褐色に暗褐色鱗片を混じ、環節端部は淡色をおびる。前翅は淡紅色、褐色鱗片を混ざるが、全体に強くピンク色をおびて見える。内横線はやや細く波状を呈し、淡色、外側を褐色にふちどられる。中横線は前縁下方で外方にかどばり、以下後縁までほぼ直線状で、淡色、その内側は強く褐色をおびる。外横線も第6脉付近から外縁まではほぼ直線状で内側に褐色細線でふちどられる。前縁翅頂部付近に小さな白色影があり、亞外縁線は小黒点列となるが、特に翅頂部に近い2黒点が顕著である。外縁部には細い淡色条が走り、縁毛は濃い紅褐色である。

後翅は淡黃白色で、内縁および外縁部は紅褐色をおび、翅の内半には2条の横線を現す。縁毛は紅橙色である。

所検標本：大阪府池田市, 3♂ 1♀, 30. viii. -7. ix. 1964 (羽化), 山本義丸採集および飼育。杉所蔵。

上記の標本は、1963年10月、山本義丸氏が幼虫を発見し、飼育によって、翌夏羽化せしめた材料の一部で、同

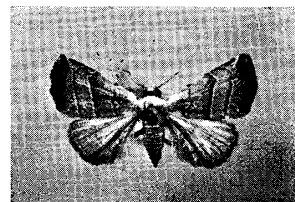


Fig. 1 *Autoba trilinea* (DE JOANNIS) ♀. ×1.6.